

平成 28 年度 第 6 回小平市図書館協議会要録

1 日 時 平成 29 年 3 月 23 日 (木) 午後 2 時から 4 時 30 分まで

2 会 場 中央図書館 2 階会議室

3 出席者 図書館協議会委員：10 名 傍聴人：2 名
事務局：中央図書館長、館長補佐兼庶務担当係長、花小金井図書館長、
調査担当係長、サービス担当係長、資料担当係長、
仲町図書館長、津田図書館長 計 8 名

4 配付資料 資料は省略させていただきます。

5 議事等

(1) 報告事項

①図書館運営状況について

- ・図書館行事等の報告と今後の予定について(資料No.1)

(これまでの報告)

- ・恒例となっている幼稚園、小学校の図書館見学、職場体験があった。
- ・1月22日に冬の1日図書館員を行った。これについては、夏の実施が毎回抽選となることから、3年前から冬も行っており、昨年度から全館で実施している。本年は5館、6家族での開催となった。
- ・1月25日に一般ボランティア懇談会を、2月9日には、これは初めてであるが、宅配ボランティア懇談会を実施した。2月22日にはハンディキャップサービス交流会を実施した。
- ・子ども読書活動推進計画では、図書館に来館が困難な子どもと保護者へのサービスに取り組むとしていることから、1月25日には小川保育園へ、1月31日にはたいよう福祉センターへ出向き、出張おはなし会を実施した。
- ・2月24日には、中央図書館で、3回目の情報検索講座「図書館の本の探し方」を実施した。一昨年、インターネット利用端末が全館に設置されたこともあり、今後はその活用や、OPACやインターネットで資料の検索をする操作方法について、市民の方に知っていただき、利用に繋げようという目的で実施をした。パソコンの台数の関係で、6人の募集であったが、半日で締め切りになるなど、その需要の高さも確認できたので、来年度以降も、継続をして行っていききたいと思っている。
- ・3月5日に中央図書館で、柚木麻子さんの講演会「読書と私」、3月11日は津田図書館で有賀幹夫さんの講演会「ロックフォトグラファーへの道 ザ・ローリングストーンズ公式写真家としての歩み」、3月18日は中央図書館で三野行徳(ゆきのり)さんの「古文書が語る小平の歴史、新田開発・玉川上水と地域資料の活用」を実施した。
- ・3月16日には、「図書館スペシャルデー」を開催した。今年は、新たにプレママ、出産を控えた方も対象にした「プレママおはなしかい」として、出産後に役立ちそうな本の紹介

や、読み聞かせを行った。

(今後の予定)

- ・3月25、26日は図書館友の会主催の古本市。
 - ・4月11日には、小平市子ども文庫連絡協議会定期総会が予定されている。
 - ・4月は、「こだいら子ども読書月間」ということで、今年は全館でさまざまな行事を開催することを予定している。
- ・平成28年度月別貸出状況について（資料No.2）
- 1月末までの数値は以下のとおり。
- ・月別・館別貸出資料数： 16,105点の減（昨年度は75,192点の増）
 - ・月別登録者数： 572人の減
 - ・月別貸出者数： 1,610の減（昨年度は28,210人の増）
- ・広域利用市別貸出状況について（資料No.3）
- ・広域利用市別貸出状況・貸出者数：東村山市、西東京市、国分寺市が増
 - ・広域利用市別貸出資料数 ：東村山市、西東京市、国分寺市、他市が増

②ブックリサイクル実施状況について（資料NO.4）

全3回の合計であるが、昨年度と比較すると、リサイクル提供冊数は増加しているが、リサイクル率は減少している状況である。

③3月市議会定例会について

一般質問で図書館関係についてはなかった。また、3月7日から9日まで予算特別委員会が開催され、教育部は3月9日に委員会があり、5人の委員から質問があった。内容としては以下のとおり。

- ・図書館の嘱託職員の報酬の違いについて
→館によって金額が違うのは、配置している嘱託職員が4人と5人の館があり人数が違うため。
- ・図書館のあり方の検討内容について
→第3次行財政再構築プランにおける「執行体制の再構築」では、基本的な考え方として、公共施設のマネジメントを図るなど市民満足度の高いサービスを、効果的かつ効率的に提供していく執行体制へと再構築していくことが掲げられている。それに基づき、事業内容、職員体制、運営方法についても検討をしていく予定である。これまでの小平市の図書館の成り立ちや発展の経緯、市民との協働の実態等を踏まえ慎重に検討をしていく。
- ・なかまちテラスの施設管理費と修繕料について
→基本的には、他の複合施設（東部、西部市民センター）と同額で、突出して高いということはない。また、修繕料は今後かかってくるもので、安価になるよう早め早めの対応をしていきたい。
- ・Wi-Fiについて（利用数、今後の展開）
→仲町図書館は常時接続している方が平均8人、中央図書館は20人程度。実績、要望も踏まえて他館への導入を検証していく。
- ・学校図書館との連携推進事業について
→仲町図書館を学校図書館との連携推進館と位置付け、学校図書館の支援を行う。また、調

べ学習用図書の特別団体貸出、図書館職員によるブックトークの実施等により授業支援を行う。さらに、学校図書館協力員研修を充実させ、学校図書館の活性化を推進する。

- ・小平市立図書館の資料数、貸出数、蔵書数等について
→人口 15 万人以上、20 万人未満の同程度の規模の市の順としては、資料費 10 位、予約数 7 位、貸出数 8 位、蔵書数 2 位となっている。

なお、当初予算については 3 月定例会最終日に議決されるので、次回の図書館協議会で報告をさせていただく。

④その他

- ・喜平図書館の耐震診断の結果について、特に問題はなかった。
- ・平成 29 年度に予定されていた電算システムのリプレイスは 1 年延長となった。
- ・平成 29 年度の司書講習について、川崎市の鶴見大学での受講を予定。
- ・第 3 次行財政再構築プランにおける「執行体制の再構築」では、時代の変化に対応した公共サービスを提供するために、図書館機能の充実と見直しについて、市の公共施設マネジメントとも連携しつつ検討をするものである。
- ・4 月 1 日から国立国会図書館歴史的音源配信サービスが開始される。
- ・商用データベース（ポプラティアを除く）について、4 月 1 日から 1 つのアカウントを中央図書館と仲町図書館双方で使うことになる。

（報告事項に関するの質疑・応答）

委 員：W i - F i の利用に関して、中央図書館と仲町図書館との利用者の割合はどうなっているのか。

事務局：中央図書館の方が、席やスペースで利用者の割合は多いかと思われる。

委 員：新聞データベースに関して、契約上、一つのアカウントでの利用に問題はないのか。

事務局：業者に確認をとっており、ポプラティアネット以外は許可がとれた。

委 員：図書館システムのリプレイスの 1 年延長について聞きたい。

事務局：昨年、様々なデモを検証したり他市を視察したりと検討をしてきたが、他社と大きな差は見られなかった。

委 員：最近、他のシステムで脆弱性の問題があったが大丈夫か。

事務局：脆弱性については 2 年ほど前にホームページ等で問題があったが、今後も確認していく。

委 員：嘱託職員の人件費について、再度確認したい。

事務局：予算計上は館別に行なっているので、嘱託職員の数によって、人件費の総額が変わるものである。通常 4 人のところと 5 人のところに分かれている。

会 長：電算化に伴う人員配置の見直しの問題については、かなり昔から言われてきているが、あり方の検討ということで、そのようなことが尾を引いているのか。

事務局：職員定数を正常な配置にするという市の大きな考え方がある。図書館の中でどれだけ適正な定数にできるかという考えの中で、それをどういう形でできるのかを検討していくということ。実際、西東京市では十数年前に同じようなことをして、かなり嘱託職員化を進めてきた。また、東久留米市は指定管理者制度の導入を、国分寺市は業務の委託化を、小金井市は N P O に委託するなど、様々な運営が行われている。

会 長：適正な人員というものをどのように考えているのか。市の考え方が気になる。

事務局：図書館の専門性というものと、指定管理というものと、いろいろな角度から考えていく必要がある。

会 長：専門性の大切さ、必要性を訴えていってはほしいと思う。

会 長：宅配貸出サービスのボランティアの懇談会があったということだが、利用状況はいかがか。

事務局：28年度は11回の92冊。基本的には上宿図書館を利用する方の実績のみである。高齢者館や地域包括支援センター等への広報活動を行っており、ここで大沼図書館での利用も増える予定。今後も広報活動は継続して利用者への周知に努めたい。

委 員：学校図書館について、その昔、学校図書館図書整備5か年計画に携わった経緯があるが、その辺りの要請等について何かやったのか。

事務局：学校図書館の図書整備は図書館ではなく、学務課がその役割を担っている。

会 長：学校図書館と公共図書館の線引きがされてしまっているところも多いが、小平市は、学校図書館協力員を通じての公共図書館との連携がうまくいっていると思われる。

(2) 協議事項

①平成29年度小平市図書館事業計画(案)について(協議資料1)

毎年、事業計画を策定していて、この計画に基づいて事業を行っていくものである。本年度は骨格予算なので、予算を伴う新規事業に関係した事項についての記載はない。議会での議決後に改めて報告する。

(昨年度との主な変更点)

- ・1頁の基本方針について、これまで年毎に追記をしてきたが、逆に分かりにくくなってきたので、表現を全面的に改定した。基本的な構成は変わらない。
- ・昨年度記載をした開館時間の拡大の本格実施については削除した。
- ・7頁の(25)図書館のあり方検討を追加した。時代の変化に対応した図書館サービスを提供するため、図書館機能の充実と見直しについて、市の公共施設マネジメントとも連携し検討する。
- ・7頁の(26)公文書館機能の検討を追加した。図書館における地域資料収集の蓄積を生かして、歴史公文書を有効活用するための保存・管理・提供に向けた体制を検討する。

②平成29年度小平市図書館協議会日程(案)について

慣行として2か月毎、木曜日に開催しており、平成29年度も前年同様の日程を組んでいる。教育委員会内には多くの委員会・会議等があり、それぞれが重ならないよう、年度初めに予定を組んでいる。

(協議事項に関しての質疑・応答)

委 員：公文書館はどこにつくるのか。

事務局：建物はつくらない。今のところ、市役所にある公文書を歴史文書としてどうやって整備、保存するかを検討しているところである。

副会長：近代の公文書というのは洋紙にインクで書いてあるから取扱いが難しいと思う。近世以前の古文書と違って、保存できずに消えてしまう可能性が高いので、それをどうするのかを考え

ていかないといけない。

事務局：市の永年保存文書でいうと議会の議事録などは明治時代のもので和紙のものもある。取り扱いや保存については考えていく必要があると思う。古いものも含め、市の方針、決定プロセス等の経緯のある公文書は残しておく必要がある。

副会長：何を残すか、どう残すかというのが大事なところである。

委員：図書館でも資料の整理、収集、保存はやっているが、一般の出版物と公文書は違ってくる。一時的にでもいいので、専門性の高い人或いは組織が携わる必要があるのでは。始めが大事である。

事務局：アーキビストと呼ばれる人がいることは承知しており、他市を見ても嘱託として雇っているところもあるので、考えていく必要はある。

委員：図書館のあり方の検討について、人件費の抑制という観点から、安易な指定管理や業務委託の方向に流れていくことに不安を感じる。どのように考えていけば良いのかが、本当に難しい。

事務局：このことについて、推進担当として担当職員の1名増加があった。担当を中心に図書館協議会で意見交換・協議をしながら進めていきたい。

委員：マスコミ等で取り上げられるのは、指定管理などで派手な取り組みをしているところで、短期的なインパクトがあるが、諸問題が生じていると聞いている。各自治体が指定管理や業務委託を進めていく中で、事業者も人材不足で地に足が付いていないような部分も出てきている。

事務局：専門性という意味で、スキル、ノウハウの部分だけではなく、小平の図書館を長期的にどうしていくかという図書館政策というような視点も求められている。そういった専門性を持つことが必要と考えている。

委員：指定管理というのは3年から5年でコロコロと業者が変わる可能性があるので、そういった視点は重要だと思う。図書の収蔵管理等についても、ポリシーをもって長いスパンで考えていく必要があることを考えると、何かトラブルが発生した時などで、直営方式ならではのものがあるのではないか。

事務局：各市でいろいろな動きがあるが、その中でどうしていくのか、次の2年は大事だと考えている。専門性を担保したいということもあるが、直営で専門性を入れたいということは、今の状況では難しい面もある。どういうことが現実的なのかを考えることが必要である。

委員：他の自治体の例でいえば、中央館だけ残して分館を指定管理に出すという事例は多いが、最終的には全館が徐々に指定管理になっていく。そういったときに、選書だけは残すといっても、フロアに出ない職員が選書をしたとしても利用者感覚がないということになる。

事務局：確かにフロアに出ない職員が選書することは難しい。いろいろ課題を整理する必要がある。

委員：何十年もうまく続いていくような指定管理ということで、事例として取り上げられているところもある。確かに、そのように絶対にできるのであれば指定管理もありかなとは考えるが、同じ事業者でも力を抜いている自治体があるように見受けられる。

事務局：直営でやるよりは、指定管理でやる方が様々なサービスができるという話もある。様々な論点があり一概には決めにくく、難しいところである。

会長：今、事業計画（案）という提言がなされ、図書館のあり方の件とか、公文書館機能の検討と

か、この文書のままでいいのか、もう少し付け加えるのがいいのか。皆さんの意見はいかがでしょうか。

委員：学校図書館への支援のあり方については、図書館から学校図書館へ出向くというやり方だが、
現行のままなのか。

事務局：いろいろ考えてはいるが、当面は現状のままである。今後、関係課との調整もしていく必要がある。

会長：意見が出たところで、事業計画（案）について、皆さんのご承認をいただきたい。

－委員の承認の声あり－

会長：続いて、日程（案）について、皆さんのご承認をいただきたい。

－委員の承認の声あり－

(3) その他

なし